

「イノベーション経営成熟度診断ツール」 について

特定非営利活動法人 ITコーディネータ協会

2015年9月1日

IT経営研究所

ITコーディネータはIT経営を実現するプロフェッショナルです

はじめに

ITコーディネータ協会は、イノベーションを起こすための企業経営のあり方について、2014年5月に「プロセスで解き明かすイノベーション」(副題:イノベーション経営プロセスガイドライン)(ITC向け呼称IPGL)として取りまとめ、[書籍として出版](#)を行った。

また、2013年度にIPAと共同で推進してきた[「IT融合人材育成連絡会」](#)では、イノベーションを起こすには個人能力とともに組織能力が求められると言う提言を行なっている。このため組織能力を評価する指標を用意することで、各組織が自己診断等を行い、継続的なイノベティブな組織作りに役立てられるようにすべきとして、ITCAにおいてこの指標の開発に取り組むことが要請された。

協会としては、ITCからの公募により「イノベーション経営力評価指標開発WG」を組成し、議論と実証を行いながら指標の開発に取り組み、ここにその成果として、[「イノベーション経営成熟度診断ツール」](#)を公開することになった。

「イノベーション経営成熟度診断ツール」は、協会が保有するIT経営における[「ビジネス競争力強化ツール」](#)の中の「ビジネス競争力成熟度診断ツール」に後続するツールであり、組織のイノベーション経営への取り組みを支援するものである。

ITCおよび会員の皆様におかれては、当ツールを積極的にお使いいただき、データの蓄積と忌憚のないご意見をいただくことで、当ツールの成長にご協力をお願いしたい。

「IT融合人材育成連絡会」からの要請

1. 個人能力の評価のあり方の検討

⇒知識や能力の可視化や、評価のあり方などについて検討を行うことができる、一定の**ガイドライン等**が必要

2. イノベーションを起動する「実践的学習の場」の構築

⇒参加者によるダイアログと実践の繰り返しから、価値発見や問題解決に取り組む学習スタイルを想定し、そのための**「実践的な学習の場づくり」**が必要

3. IT融合組織能力の評価軸の策定

⇒価値創造を起こす組織能力の成熟度を評価する**「IT融合組織能力評価軸」**が必要

ITCAの取り組み

■IPGLの出版

⇒IPGLの中で、個人能力のあり方について言及。



■イノベーション経営研修を開発

⇒11本の研修プログラムを開発

■イノベーションを起こすことができる組織能力の評価軸の策定

⇒イノベーション経営成熟度診断ツールとして開発

■ 開発の背景

あらゆる組織、ITCのイノベーションへの取り組みの必要性が増大
「IT融合人材育成連絡会」からの組織能力評価指標の開発要請
協会の「ビジネス競争力自己診断ツール」はIT経営力の診断に使うことが前提



「イノベーション経営力」の組織能力が診断できれば

- ＜企業のメリット＞ イノベーションが起こせる組織へ変革するポイントが分かる
- ＜ITCのメリット＞ 企業内ITCは自組織への適用、独立系ITCは顧客企業へのビジネスに活用できる
- ＜協会のメリット＞ イノベーション分野において、理論づけはIPGL、育成は研修、実践は診断ツールとして一貫したサービスが提供できる



このため協会がWGを組成しイノベーション経営力評価指標を開発することとなった。
2015年9月、成果物として「イノベーション経営成熟度診断ツール」を公開する。

ツールの概要

名称を「イノベーション経営成熟度診断ツール」とし、以下の資料から構成される。

「イノベーション経営成熟度診断シート(A)」:

→ 組織のイノベーション経営への取り組みの全体感を診断するためのシート

「イノベーション経営成熟度診断シート(B)」:

→ IPGLのプロセス・フェーズごとに、組織IQの視点で詳細に診断するためのシート

「IPGL逆引きINDEX」(ITC用)

→ 「イノベーション経営成熟度診断シート(B)」とIPGLとの対比に使うシート

「イノベーション経営力診断ツール利用の手引き」(利用者用)

→ 利用者のための手引き書

「イノベーション経営力診断ツール活用の手引き」(ITC用)

→ 利用者を支援するITCのための手引き書

「案内リーフレット」

→ 当ツールの導入を勧めるためのPRチラシ

診断の目的

組織のイノベーション経営力を成熟度レベルで評価することによって、イノベーションが起こせる組織にするための「気づき」や「処方箋」が得られること。

(注1) 「イノベーション経営力」の定義

組織のイノベーションへの取り組み(意識・行動)の能力と定義する。

(注2) IPGLでの「イノベーション経営」の定義

既存の事業ドメイン・ビジネスモデルに安住せず、常に新たな成長機会を発掘するような取り組みを、経営の意思において組織的・戦略的・持続的に実践する経営のこと。

(注3) IPGLでの「イノベーション」の定義

社会実態や環境の変化を洞察し、多様な分野とITを融合させ、新しい概念や技術・プロセスを生み出し、市場・事業・サービス・組織等を創出することにより、社会や顧客に新しい価値を提供すること。

ただし、新しい発想に基づくものであれば、社会を大きく変えるようなものだけでなく、比較的小さい改善ベースのものもイノベーションとして含める。

(注4) IPGLで取り上げる「イノベーション」の領域

イノベーションには、ソーシャル・イノベーション、科学技術イノベーション、ビジネス・イノベーションがあるが、ビジネス・イノベーションを対象としている。

診断が適用できる組織

「イノベーション経営」と「IT経営」は、経営手法が異なる。
そのため、それぞれの経営スタイルに適した診断ツールを使う必要がある。

- 組織形態:** 企業、国、自治体、病院、学校、農業法人、NPOなど、あらゆる組織
- 組織規模:** 大企業と中小企業、業種・業態での違いはない
- 診断対象:** イノベーションに関心がある組織
イノベーションしなくてはと考えている組織
新事業、新商品・新サービスが必要と考えている組織
今のままではまずい、将来は無い、変えたいと考えている組織
(IT経営が十分できていないと思われる組織に適用しても効果がない可能性が高い、この場合「IT経営成熟度診断ツール」を適用すべきであろう)
- 診断階層:** ①経営者(経営層)、
②組織(経営企画部門など)、
③個人・チーム(現場)
の3層で出来るだけ多様な人材に診断させることが望ましい
仕入れ先やパートナーなど、ステイクホルダーに診断してもらう場合
にも使える

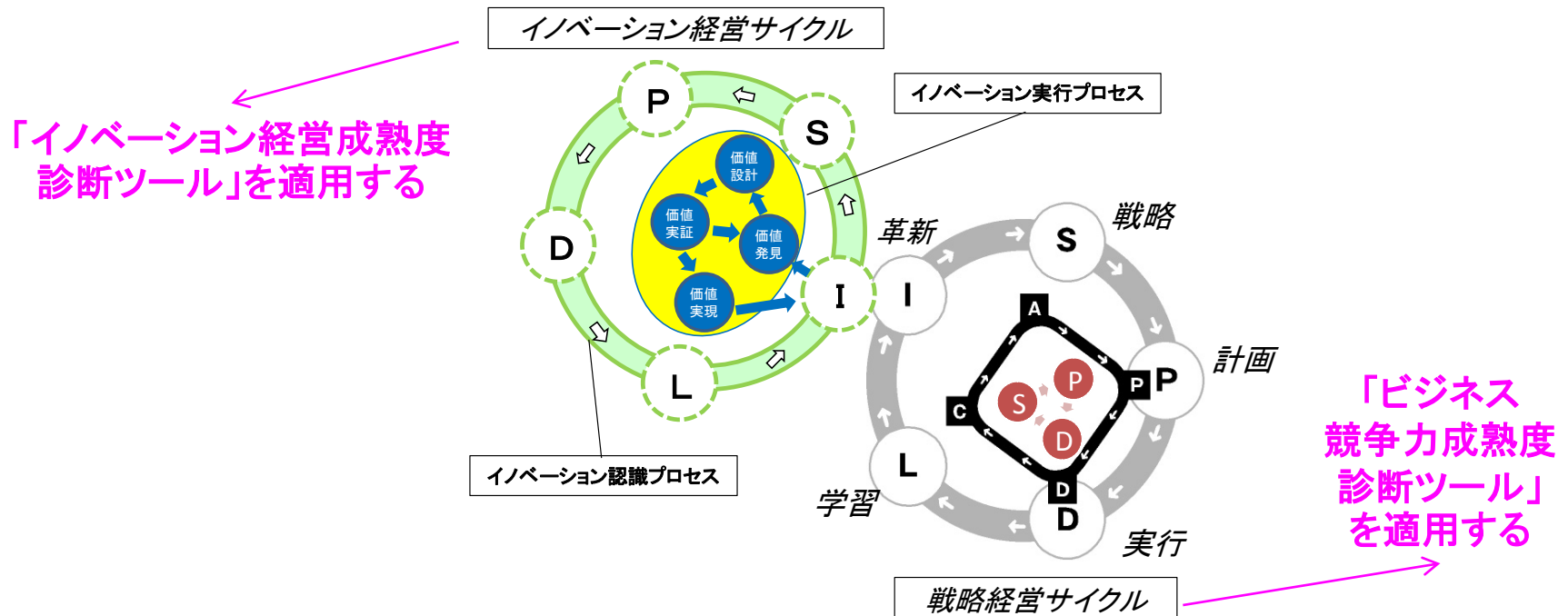
(参考)「イノベーション経営」と「IT経営」の違い

従来の経営(IT経営)は、経営戦略の策定と、その戦略に基づきPDCAで管理された実行マネジメントに主眼が置かれています。現業の改善・改革のなかで行われるイノベーションは、戦略経営サイクルの中で実施することができます。

一方、変化の激しい時代にあっては、既存の枠組みを壊すようなイノベーションは、進め方も予想しがたく、リスクも大きくなります。また、新しい商品やサービスが既存事業と競合する可能性もあります。

すなわち、イノベーションを実現するイノベーション経営サイクル(イノベーション経営)は、戦略経営サイクルとは異なる価値観とプロセスでなされと考える必要があります。

企業が既存の事業を進めながら自ら改革を進め、新規事業を展開するうえでは、このように違いのあるイノベーション経営サイクルと戦略経営サイクルの両方をうまく動かすことが必要となります。



成熟度の評価方法

イノベーション経営力の評価には、
①IPGL(イノベーション経営プロセスモデル)
②成熟度モデル
③組織IQモデル
を援用している。

- 前提:** IPGLの記述を「正」とする
- 評価要素:** IPGLに書かれているプロセス、基本原則、基本姿勢をベースとする
- 評価項目:** IPGLのプロセス・フェーズ単位に、組織能力(イノベーション経営力)を評価する
- 評価軸:** 能力のレベルは「成熟度モデル」を適用する
能力の視点は、「組織IQモデル」を適用する
- 評価者:** 基本的には、組織自体が自己診断する。
IPGLや組織IQのことを良く理解しているITCなど専門家に支援を受けながら診断を行うことで、処方箋も作ることができる。

IPGLの考え方を適用してイノベーションが成功した実証データはまだ存在しない。従って、イノベーション経営力の評価には、企業業績との相関性が証明されている組織IQのフレームワークを援用することにした。

IPGLはイノベーション経営のプロセスについて提唱されたガイドラインであり、企業組織がイノベーションを起こすことができる状態にあるかを評価するものではない。

また、企業組織がどのような状態にあればイノベーションを起こせるのかについての研究は、未だに発展途上の段階にあり、唯一無二の確立されたモデルは存在しない。

そこで、イノベーション経営力診断ツールの構築に際して、組織能力をあらわす「組織IQ」を援用した。組織IQは5要件から成るフレームワークで、企業業績との相関性が証明されている。これを用いることにより、現段階で、より有効性の高い診断ツールの構築を志向した。

具体的には、組織IQの5要件に基づき、IPGLで記述されているプロセスや基本姿勢を分解し、それぞれの実現状態を5段階で定義し、評価レベルとした。

本診断ツールは試行適用の段階にあるが、多くの組織で利用され、診断データが集まれば、その有効性が実証されるものであると期待する。

(参考)組織IQとは

企業の能力は、組織メンバーの資質と組織能力の積と考えることができる(下図左)。

「組織IQ」というフレームワークを開発し、これによって組織能力を測ることを提唱したのは、スタンフォード大学経営大学院教授のヘイム・メンデルソンと当時マッキンゼー・アンド・カンパニーのコンサルタントだったヨハネス・ジークラーである。二人はその共著「スマート・カンパニー」のなかで、組織IQの要件を次の五つにまとめており、それぞれ補完する関係にある(下図右)。

①外部情報感度

組織の各部門がそれぞれに顧客や競合他社、技術動向など、必要な情報をつかんでいる。

②内部知識流通

組織内で各種意思決定に必要な情報・知識をきちんと共有し、組織の成員が業務知識や過去の失敗例などを学習できる環境が整っている。

③効果的な意思決定機構

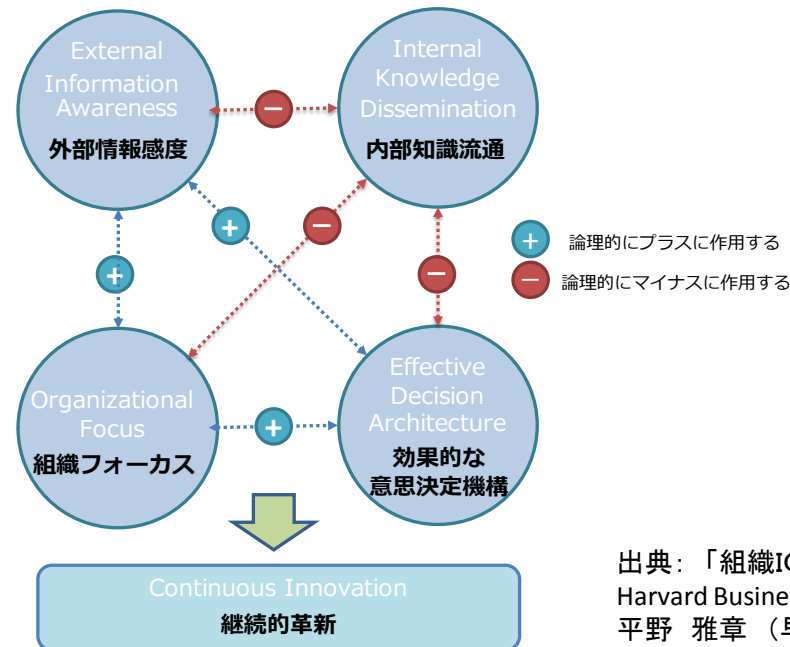
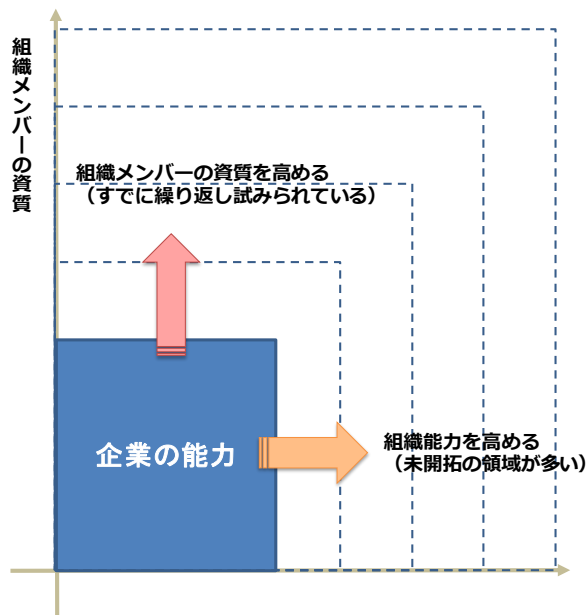
意思決定が適切な人物によって行われるよう組織・権限が設計され、その意思決定者に必要な知識と能力が正しく配分されている。

④組織フォーカス

事業範囲や管理対象を限定することで、情報氾濫や過度に複雑な意思決定過程を排除し、組織内の情報処理が最適化されている。

⑤継続的革新

事業遂行能力を継続的に改善していくために、組織内で新たなアイデアや知識を創出する仕組みやインセンティブが制度化されている。



出典: 「組織IQ論」

Harvard Business Review, September 2008

平野 雅章 (早稲田大学教授)

診断ツールと適用モデルとの関係

イノベーション経営モデル (ITCAのイノベーション経営 プロセスガイドライン)

成熟度モデル (世界的に定着している 成熟度の評価指標)

組織IQモデル (世界的に実証されている 組織能力の評価指標)



- レベル0: 無意識または誤解している状態
- レベル1: 行き当たりばったりの状態
- レベル2: 必要な要素を把握している状態
- レベル3: 組織的取組ができ始めた状態
- レベル4: 適切な判断ができるようになっている状態
- レベル5: 臨機応変の状態

組織の能力=組織メンバーの資質×組織能力
組織能力(組織IQ)=
外部情報認識(EIA: external information awareness) ×
効果的決定構造(EDA: effective decision architecture) ×
内部知識流通(IKD: internal knowledge dissemination) ×
組織フォーカス(OF: organizational focus) ×
継続的革新(CI: continuous innovation)

組織全体の状況を成熟度診断する
イノベーション経営成熟度診断シート(A)

項目	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
イノベーション経営の意識	イノベーション経営の意識がほとんどない。	イノベーション経営の意識が薄く、一部の関係者だけが意識している。	イノベーション経営の意識が広がり、一部の関係者だけが意識している。	イノベーション経営の意識が広がり、一部の関係者だけが意識している。	イノベーション経営の意識が広がり、一部の関係者だけが意識している。	イノベーション経営の意識が広がり、一部の関係者だけが意識している。
イノベーション経営の体制	イノベーション経営の体制がほとんどない。	イノベーション経営の体制が薄く、一部の関係者だけが意識している。	イノベーション経営の体制が広がり、一部の関係者だけが意識している。	イノベーション経営の体制が広がり、一部の関係者だけが意識している。	イノベーション経営の体制が広がり、一部の関係者だけが意識している。	イノベーション経営の体制が広がり、一部の関係者だけが意識している。
イノベーション経営の文化	イノベーション経営の文化がほとんどない。	イノベーション経営の文化が薄く、一部の関係者だけが意識している。	イノベーション経営の文化が広がり、一部の関係者だけが意識している。	イノベーション経営の文化が広がり、一部の関係者だけが意識している。	イノベーション経営の文化が広がり、一部の関係者だけが意識している。	イノベーション経営の文化が広がり、一部の関係者だけが意識している。
イノベーション経営の成果	イノベーション経営の成果がほとんどない。	イノベーション経営の成果が薄く、一部の関係者だけが意識している。	イノベーション経営の成果が広がり、一部の関係者だけが意識している。	イノベーション経営の成果が広がり、一部の関係者だけが意識している。	イノベーション経営の成果が広がり、一部の関係者だけが意識している。	イノベーション経営の成果が広がり、一部の関係者だけが意識している。

IPGLのプロセス・フェーズに分解し
組織IQの視点から成熟度診断する
イノベーション経営成熟度診断シート(B)

項目	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	フェーズ4	フェーズ5	フェーズ6	フェーズ7	フェーズ8	フェーズ9	フェーズ10	フェーズ11	フェーズ12	フェーズ13	フェーズ14	フェーズ15	フェーズ16	フェーズ17	フェーズ18	フェーズ19	フェーズ20
イノベーション経営の意識																				
イノベーション経営の体制																				
イノベーション経営の文化																				
イノベーション経営の成果																				

ITCA
ITCoordinators Association

経営者の中核的成長意欲の検証

「ビジネス」の成長意欲と「ビジネス」を遂げるための「**イノベーション**」経営成熟度診断のご案内

「ビジネス」の成長意欲を
「イノベーション」経営成熟度診断で
検証しよう

このよな悩みはありませんか？

- ① 事業の成長意欲と「イノベーション」経営成熟度の間にギャップがある
- ② 事業の成長意欲と「イノベーション」経営成熟度の間にギャップがある
- ③ 事業の成長意欲と「イノベーション」経営成熟度の間にギャップがある
- ④ 事業の成長意欲と「イノベーション」経営成熟度の間にギャップがある

診断結果を元に改善をしよう

「ビジネス」の成長意欲を
「イノベーション」経営成熟度診断で
検証しよう

こんな組織にも生まれ得ますよ！

- ① Change 事業の成長意欲と「イノベーション」経営成熟度の間にギャップがある
- ② Challenge 事業の成長意欲と「イノベーション」経営成熟度の間にギャップがある
- ③ Challenge 事業の成長意欲と「イノベーション」経営成熟度の間にギャップがある

「イノベーション」経営成熟度を高めよう

「ビジネス」の成長意欲を
「イノベーション」経営成熟度診断で
検証しよう

「イノベーション」経営成熟度を高めよう

「イノベーション」経営成熟度を高めよう



経営者へ診断の提案

イノベーション経営成熟度診断ツール
利用の手引き
(利用者用)

特定非営利活動法人 ITコーディネータ協会

利用の手引き (利用者用)

イノベーション経営成熟度診断シート(B)

[illegible]

各人にチェック記入
してもらう



**詳細
チェック**

活用の手引き(ITC用)

イノベーション経営成熟度診断ツール
活用の手引き
(ITC用)

特定非営利活動法人 ITコーディネータ協会

IPGL
逆引きINDEX
(ITC用)

人の意思、経路のDNAを変える！

プロセスで 解き明かす イノベーション

イノベーション経営プロセスガイドライン

「IT・マーケティング」研究委員

イノベーションが 日本を救う

イノベーションが日本を救う。その一冊のイノベーションとは何か。本書はイノベーションのDNAとして「イノベーション・プロセス」を通して、知識の威力、知識を蓄積する環境の重要性を説き及ぼすことにより、イノベーションを創出する環境を構築して、イノベーションを創出します。

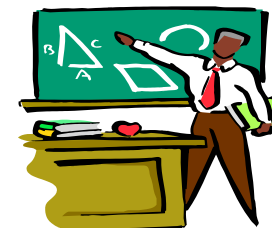
著者 紀成英一

「イノベーション」研究委員

イノベーション

Year	Month	Day	Event	Location
1981	12	12	Christmas Eve	St. John's Church
1981	12	25	Christmas Day	St. John's Church
1982	1	1	New Year's Day	St. John's Church
1982	2	2	Feast of the Purification	St. John's Church
1982	3	3	Feast of the Annunciation	St. John's Church
1982	4	4	Feast of the Ascension	St. John's Church
1982	5	5	Feast of the Pentecost	St. John's Church
1982	6	6	Feast of the Trinity	St. John's Church
1982	7	7	Feast of the Holy Spirit	St. John's Church
1982	8	8	Feast of the Transfiguration	St. John's Church
1982	9	9	Feast of the Exaltation of the Holy Cross	St. John's Church
1982	10	10	Feast of the Commemoration of the Holy Fathers of the First Council of Nicaea	St. John's Church
1982	11	11	Feast of the Commemoration of the Holy Fathers of the Second Council of Constantinople	St. John's Church
1982	12	12	Feast of the Commemoration of the Holy Fathers of the Third Council of Ephesus	St. John's Church
1983	1	1	New Year's Day	St. John's Church
1983	2	2	Feast of the Purification	St. John's Church
1983	3	3	Feast of the Annunciation	St. John's Church
1983	4	4	Feast of the Ascension	St. John's Church
1983	5	5	Feast of the Pentecost	St. John's Church
1983	6	6	Feast of the Trinity	St. John's Church
1983	7	7	Feast of the Holy Spirit	St. John's Church
1983	8	8	Feast of the Transfiguration	St. John's Church
1983	9	9	Feast of the Exaltation of the Holy Cross	St. John's Church
1983	10	10	Feast of the Commemoration of the Holy Fathers of the First Council of Nicaea	St. John's Church
1983	11	11	Feast of the Commemoration of the Holy Fathers of the Second Council of Constantinople	St. John's Church
1983	12	12	Feast of the Commemoration of the Holy Fathers of the Third Council of Ephesus	St. John's Church
1984	1	1	New Year's Day	St. John's Church
1984	2	2	Feast of the Purification	St. John's Church
1984	3	3	Feast of the Annunciation	St. John's Church
1984	4	4	Feast of the Ascension	St. John's Church
1984	5	5	Feast of the Pentecost	St. John's Church
1984	6	6	Feast of the Trinity	St. John's Church
1984	7	7	Feast of the Holy Spirit	St. John's Church
1984	8	8	Feast of the Transfiguration	St. John's Church
1984	9	9	Feast of the Exaltation of the Holy Cross	St. John's Church
1984	10	10	Feast of the Commemoration of the Holy Fathers of the First Council of Nicaea	St. John's Church
1984	11	11	Feast of the Commemoration of the Holy Fathers of the Second Council of Constantinople	St. John's Church
1984	12	12	Feast of the Commemoration of the Holy Fathers of the Third Council of Ephesus	St. John's Church

分析(処方箋)、
提案へ



ツールの詳細

イノベーション経営成熟度診断シート(A)

組織のイノベーション経営への取り組みの全体感を診断するためのシートである。
5つの診断項目は、IPGLの各プロセス・フェーズに下図のように該当する。
シートは下図1ページで構成される。

評価レベル	0	1	2	3	4	5
イノベーション経営の認識	無意識の状態	イノベーションを認識している状態	行き当たりつぱりの状態	必要な要素を把握している状態	組織的取組ができ始めた状態	活動に際して適切な判断がとれている状態
経営者（経営層）の認識	今までの経営を伸ばしていれば成 功すると思っている。	イノベーションを認識しているため、 イノベーションに一部の責任が与え られている。確信のないことに チャレンジすることはリスクが伴うと 考えている。	イノベーションが必要であると思 っているが、無意識であるため行動 に迷っている。新しいアイデアが舞 い込めばイノベーション活動を進め る。	経営陣との意思が一致して決断した 場合、必要な要素を把握している。 経営陣が明確に示すことができてい る。イノベーション活動を推進す る。	イノベーションに対する認識と方向 性について経営陣から必要要素を 周知している。ただし、従業員がど の程度理解しているかは把握でき ていない。	イノベーション活動に必要な要素は 組織全体のものとして認識されてい る。また、イノベーションに対する認 識に開き、イノベーションを社 会的貢献の手段として位置づけ ている。
イノベーション実践化活動状況	現在、経営方針に反ったなかでの 改善活動は進められている。	イノベーションを認識しているため、 顧客価値を追求し、提供体制から の視点で組織変革を行い、顧客に 価値を提供している。新しいこと を試し、失敗は許される文化があ る。	偶然の産物としてイノベーションを 成功させた経験があるが、成功が 継続的な活動につながっていない。 失敗は許される文化がある。	イノベーション活動は組織全体 の責任として認識されている。組 織全体がイノベーション活動を推 進する体制が確立されている。	イノベーション活動は組織全体 の責任として認識されている。組 織全体がイノベーション活動を推 進する体制が確立されている。	イノベーション活動は組織全体 の責任として認識されている。組 織全体がイノベーション活動を推 進する体制が確立されている。
人材の育成・活用	PDCA（計画・実行・評価・改善）の サイクルを回し、人材の育成・活 用を進めている。	イノベーションを認識しているため、 新しい人材を育成・活用している。 人材の育成・活用は組織全体の 責任である。	イノベーション活動があるが、私 人的に人材育成・活用を進めてい る。必要となる人材を育成・活用 している。	イノベーションの推進方法について、 組織のリーダーが明確に示してい る。また、そのための教育・研 究・開発を進めている。	個人の能力及び状況に応じて、イ ノベーションに対する認識、教育が 体系的に実施されている。	イノベーションに必要な認識、教育 は体系的に実施されている。また、 イノベーションに対する認識が 組織全体に浸透している。
組織文化	価値観が過去の成功体験に基 づいている。新しいことへの挑戦 が奨励されている。	イノベーション活動の推進に 必要となる人材を育成・活用して いる。新しいことへの挑戦が奨 励されている。	特定の人のアイデアがイノベ ーション活動につながる。イノ ベーション活動は個人の責任であ る。	組織全体がイノベーション活動に 参加している。また、そのための 教育・研究・開発を進めている。	組織全体の状況や課題に応じて、イ ノベーション活動に取り組んでい る。また、そのための教育・研 究・開発を進めている。	イノベーション活動を推進するた めに、組織全体がイノベーション 活動に取り組んでいる。
知の活用状況	知の活用（外部情報や、ビッグ データ、AI、失敗事例、ノウハウ など）がイノベーションの推進 に活用されている。	イノベーションを認識しているため、 知の活用（外部情報や、ビッグ データ、AI、失敗事例、ノウハウ など）がイノベーションの推進 に活用されている。	組織として、どのようなイノ ベーション活動が成功するかを 認識している。	イノベーション活動に必要な個人 知の活用（外部情報や、ビッグ データ、AI、失敗事例、ノウハウ など）がイノベーションの推進 に活用されている。	イノベーション活動によって得られ た知は、組織全体で共有・活用さ れている。また、そのための教育・ 研究・開発を進めている。	利便に左右されず、イノベーション 活動に必要な知は組織全体で 共有・活用されている。また、 イノベーション活動によって得 られた知は、組織全体で共有・ 活用されている。

←イノベーション経営成熟度診断シート(A)

↓ IPGLのイノベーション経営プロセス

イノベーション認識プロセス

イノベーションのプロデュースフェーズ

イノベーション実現プロセス

イノベーションの姿勢と方向性の確認フェーズ

価値創出プロセス

価値設計フェーズ

価値発見フェーズ

価値実証フェーズ

価値実現フェーズ

イノベーション環境・体質構築プロセス

経営者のリーダーシップフェーズ

イノベーション人材の育成・活用フェーズ

柔軟なイノベーション組織環境の構築フェーズ

コミュニケーションと知の経営フェーズ

診断項目

評価レベル(0~5)

診断内容

ITCA
ITCoordinators Association

← ①認識プロセスのシート例

Copyright: IT Coordinators Association, 2015

診断項目

プロセス

プロセス

基本姿勢

プロセス、基本
姿勢の内容と、
該当ページ

フェーズ

組織IQの視点

[illegible]

「利用の手引き」は、利用者（診断を受けるユーザー）に診断の趣旨、やり方を示したもの。
「活用の手引き」は、ITCに診断の趣旨、やり方を示したもの。

イノベーション経営成熟度診断ツール
利用の手引き
(利用者用)

特定非営利活動法人 ITコーディネータ協会

イノベーション経営成熟度診断ツール
活用の手引き
(ITC用)

特定非営利活動法人 ITコーディネータ協会

案内リーフレット

特に中小企業の経営者に対して、診断を勧めるときにお見せする案内ちらしである。
2ページ(1枚両面印刷)で構成される。

↓ 案内リーフレット(おもて)



悩める中小企業経営者の皆さまへ

～ドラスティックな変化をビジネスチャンスにするために～

「イノベーション経営力診断」のご案内

この現状
どうにか
ならないか?

このような悩みはありませんか?

- 組織が硬直化して業績が伸び悩んでいる。
- 周りの環境の変化についていけない。
- 出てくるアイデアは実現性がなく、事業に結びつかない。
- 改革の成功体験はあるが、持続的な活動に結び付かない。

診断を元に改善
を行えば...

なるほど!
これでいいんだ!!

こんな組織に生まれ変わります!

- Change : 自らを変え、硬直した組織から変化に気づく組織になります。
- Chance : ビジネスチャンスに結びつく変化をつかめる組織になります。
- Choice : 色々な視点から最適なビジネスモデルを構築できる組織になります。
- Challenge : 改革意欲が倍付き、新たな事業チャレンジを続ける組織になります。

ITコーディネータ
にお任せを

イノベーション経営プロセスを熟知したプロがお手伝いします

的確な診断を行い経営改革に結び付けていただくためには、「課題抽出の抽出・整理・分析」や「これからの経営」の「課題抽出」や「課題解決」に向けての検討事項やゴールの適切な選定が重要です。これらの選定ポイントをサポートし「IT経営成熟度診断経験」を持ち、更にイノベーション経営プロセスに熟知したITコーディネータがお手伝いいたします。

↓ 案内リーフレット(うら)



でも、どんな感じで
活用できるの?

イノベーション経営力診断を利用 した組織改革の流れ

成熟度診断

- ✓ 自社の目指すべき領域
- ✓ イノベーションを推進する
- ✓ 自国の組織
- ✓ 実証実験の推進

組織改革の推進

- ✓ 方向性の確認
- ✓ 対象の選定
- ✓ 組織改革の実施

**イノベーション経営の
取り組み**

- ✓ イノベーションの推進と
方向性の設定
- ✓ 新事業価値の創出
- ✓ 事業としての定着化

(「イノベーション経営力診断ツール」 (IPGL)活用、お客様と協働のうえ実施を決定)
活用、1回(1日・2時間)

* IPGLとは、2014年にITコーディネータ協会が日経BP社
より出版した、イノベーションを起こす基本姿勢と具体的な
プロセスを紹介した書籍です。
「イノベーション経営」は本書で定めた新しい経営ですが、
持続的に新しい価値を生み出すことができる経営のことです。

プロセスで
解き明かす
イノベーション

イノベーションが
日本を救う

ITコーディネータ協会の研修支援体制もあります

伝統的にイノベーションを起こすことができる組織を作り上げるために、タイムリーな研修支援
が必要になります。
ITコーディネータ協会ではイノベーションを推進する人材育成を支援する研修支援メニューが
豊富に用意しております。あなたの会社・従業員に合った研修をチャイスすることで、組織改革を
加速することができます。

IA1 イノベーション経営の気づき	1日/半日	経営者向け
IB1 あなたの「IT」と「こと」が会社を変えます!	1日/半日	経営者向け
IB2 イノベーションリーダー養成研修	2日/1日	経営者向け
IC1 イノベーション経営のための発想法	1日	基礎コース
IC2 ビジネスモデルデザイン実践	1日	基礎コース
IC3 イノベーションを起こすためのデザイン思考	1日	基礎コース

お申込み、お問い合わせは...

電子メールで、件名を「イノベーション経営について」として、
氏名、会社名、会社住所、連絡先メール・電話、所属、ご意見・ご質問をお寄せのうえ
お問い合わせください。
お問い合わせ先: ITコーディネータ協会 IT経営研究所 TEL: 03-5912-1081
〒113-0021 東京都文京区本郷2-28-8 文京グリーンコートセンター9F



**ITコーディネータはIT経営を実現する
プロフェッショナルです**